2 将来設計と準備について

卒業後の進路

卒業後の進路は「民間企業」が約4割
「公務員、教育・研究職」もあわせて約3割

学年が上がるにつれ「民間企業」派に

「民間企業」派は楽勝科目を狙う?!

希望進路を考え出す時期

高校までの夢は
大学に入ってから変化？

希望進路を考え直す大学時代

希望進路を考え出したのは「大学に入ってから」が57.0%

進路への不安

進路への不安、第一位は「自活の可能性」

「能力への不安」に悩む女性22.5%

「能力以外の側面」に悩む社会人学生・留学生

大学に望む将来設計のサービス

将来設計への情報やサービスは
満遍なく欲しい？

大学教育の利用方法を積極的に模索している社会人学生

将来設計への準備

将来へは、学生の本分である
「学問・研究に励む」ことでスタンバイ

授業への意欲が高い学生ほど「学問・研究に励む」

意欲の低い学生ほど「課外活動の充実」「特に何も準備しない」傾向あり

インターンシップへの不安

まずはインターンシップ制度の周知が必要？

不安や躊躇の原因のトップ2は

「どんな制度・受け入れ先があるのか知らない」28.6%

「興味がない」19.3%

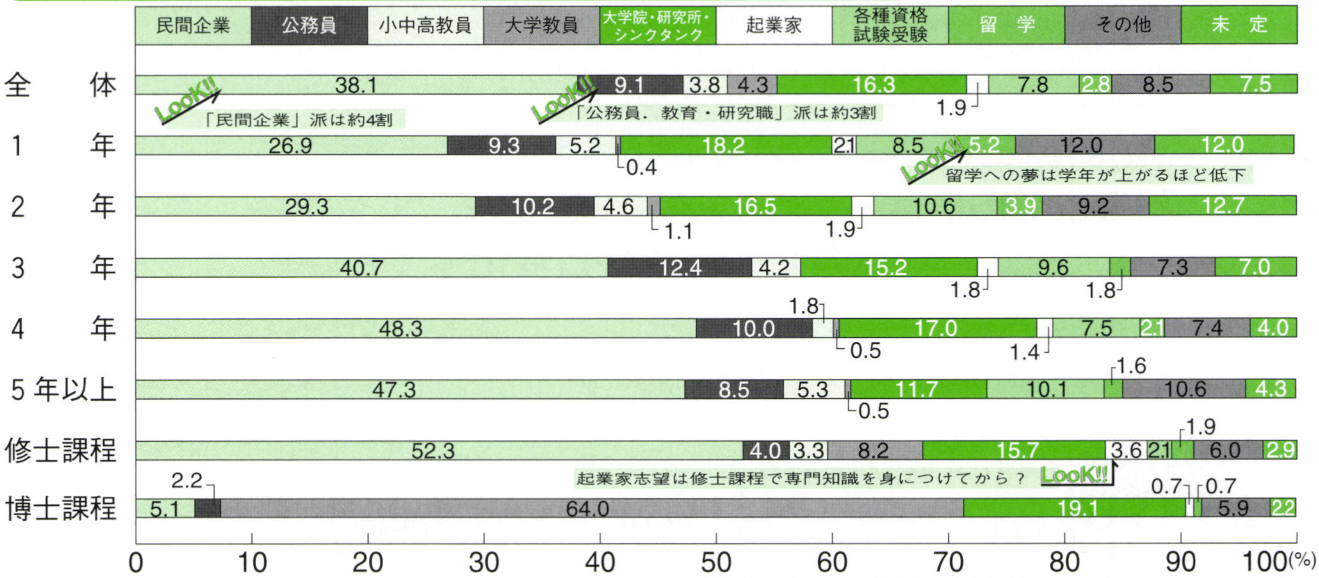
Q 学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？

卒業後の進路は「民間企業」が約4割「公務員、教育・研究職」もあわせて約3割

POINT

学年が上がるにつれ「民間企業」派に
「民間企業」派は楽勝科目を狙う？！

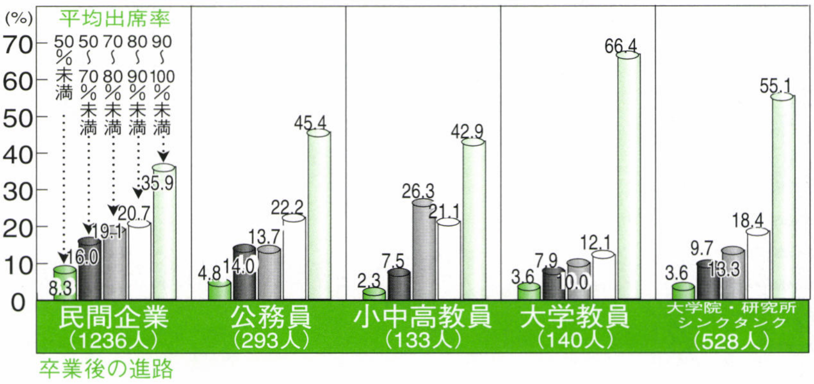
学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？（学年別）



※回答率の低かった選択肢をまとめて「その他」にしています。

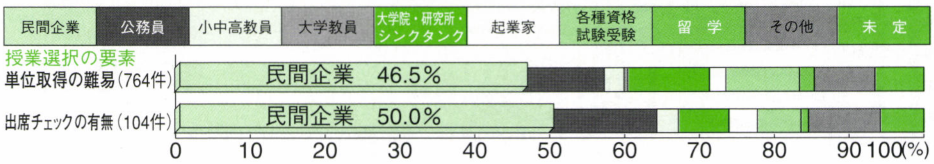
学生の38.1%は「民間企業」への進路を希望していて、その傾向は学年が上がるほど増えていきますが、大学院も博士課程まで進んだ学生は「大学教員」を目指す人が64.0%となっています。また社会人学生や留学生の約3割は「大学院・研究所・シンクタンク」への進路を希望しており、研究という目的意識の明確さが感じとれました。

一部抜粋　あなたのこれまでの授業平均出席率はどれくらいですか？／学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？



さらに「公務員」や教育・研究職を希望している学生は、「民間企業」を希望する学生とは異なり、授業への興味は高く、出席率も良いのが分かります。これに対して「民間企業」に進みたい学生は授業を選択する際にも「単位取得の難易」や「出席チェックの有無」を気にするなど、「楽勝科目狙い」が感じとれます。概して大学院や研究所への進学希望は文系に比べて理系が多くなっていました。現場に出たときに、より専門的な知識の蓄積が必要とされる領域だからかもしれません。

一部抜粋　学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？／あなたが授業を選ぶ際に重要だと思う要素は何ですか？［複数選択可］



高校までの夢は大学に入ってから変化？

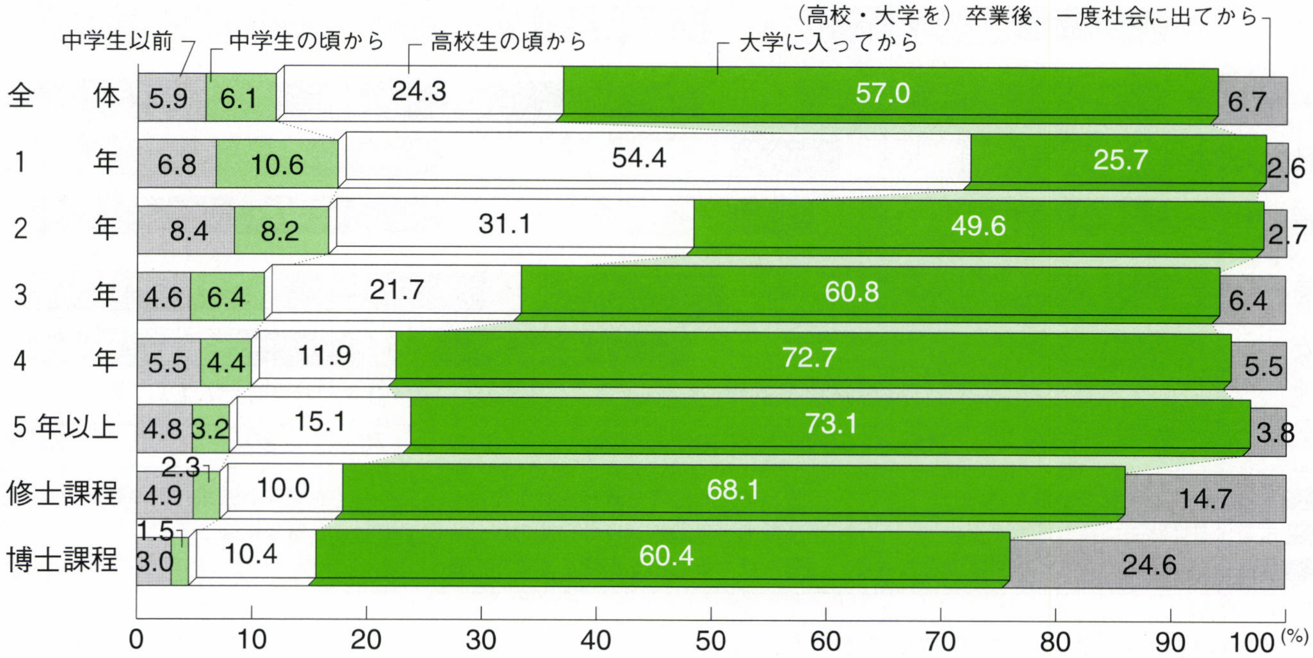
POINT

希望進路を考え直す大学時代

希望進路を考え出したのは「大学に入ってから」が**57.0%**

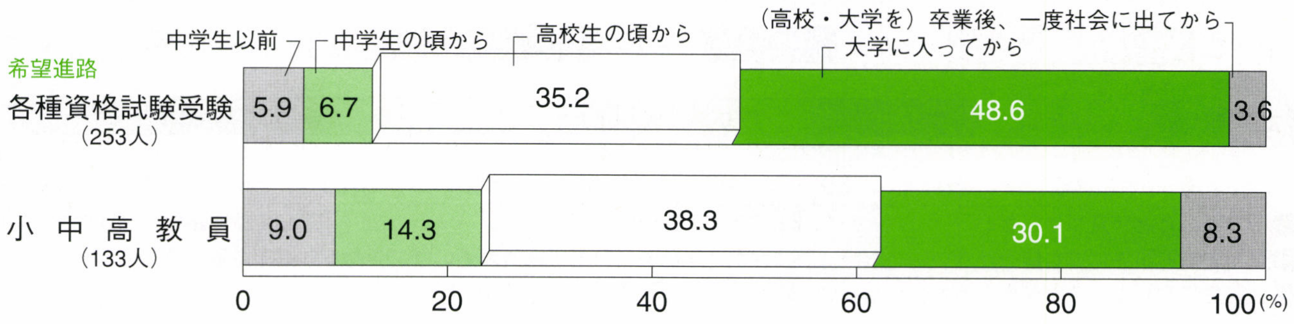
進路を考え始めた時期を見ると明らかに学年により推移が見られます。低学年の頃は「高校生の頃から」考えていた進路が現在の希望進路なのに対し、学年が上がるにつれ、「大学に入ってから」考えたものが現在の希望進路になっているのが分かります。大学に入り新たな知識を身に付け、アルバイト等で社会に接する機会が増えるにつれ、漠然としていた将来の方向性と可能性が定まるものと考えられます。

学部・研究科卒業後の現在の希望進路を考え始めたのはいつくらいからですか？（学年別）



ただし、「小・中・高教員」への進路を希望していたり、「各種資格試験受験」を希望している学生は、その夢を高校のうちに固めているようです。教員希望の場合は免許のために人より多くの単位を計画的にとらなければならないので、その覚悟が入学時以前から必要とされるためでしょう。

一部抜粋 現在希望する卒業後の進路を考え始めたのはいつくらいからですか？／学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか？

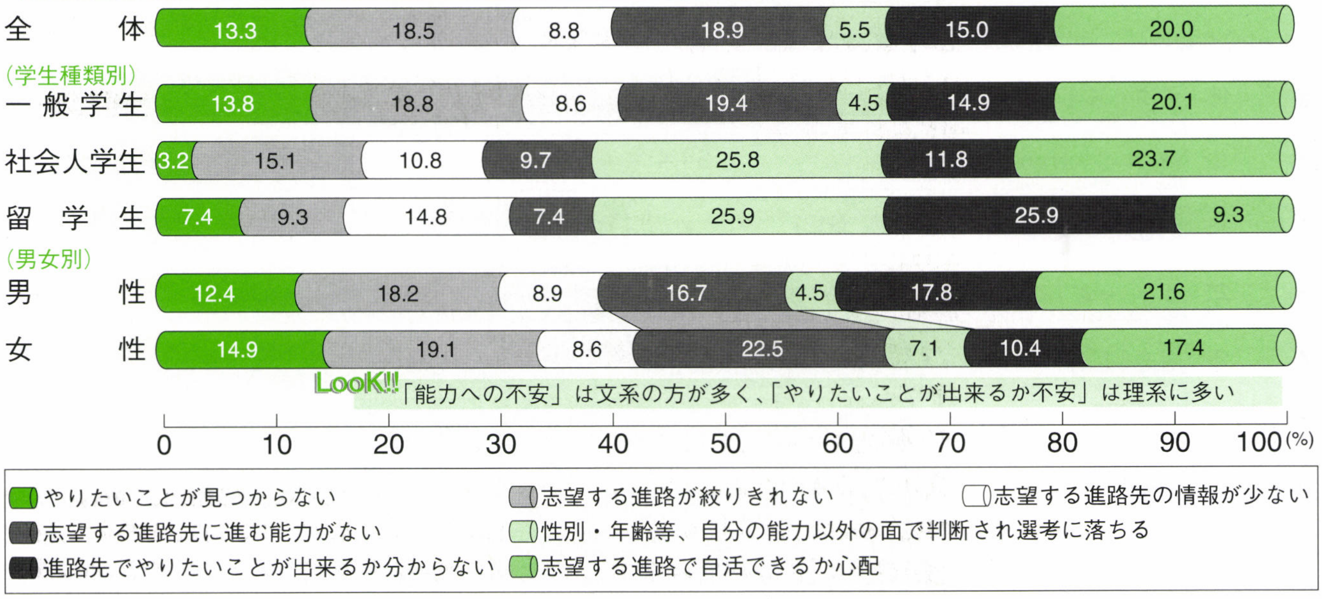


進路への不安、第一位は「自活の可能性」

POINT
「能力への不安」に悩む女性**22.5%**
「能力以外の側面」に悩む社会人学生・留学生

30代でのリストラも見られる中、第一の不安は「志望する進路で自活できるか心配」であり「進路先に進む能力への不安」がそれに続きます。しかし社会人学生や留学生は「性別や年齢等、自分の能力以外の面で判断され選考に落ちる」ことを不安に思っています。これは女性にも見られ、就職難で「女性はあとまわし」という傾向を懸念するものだと思われます。また、女性は自己を過小評価する傾向が強いのか「能力への不安」が第一位であることも特筆すべきでしょう。

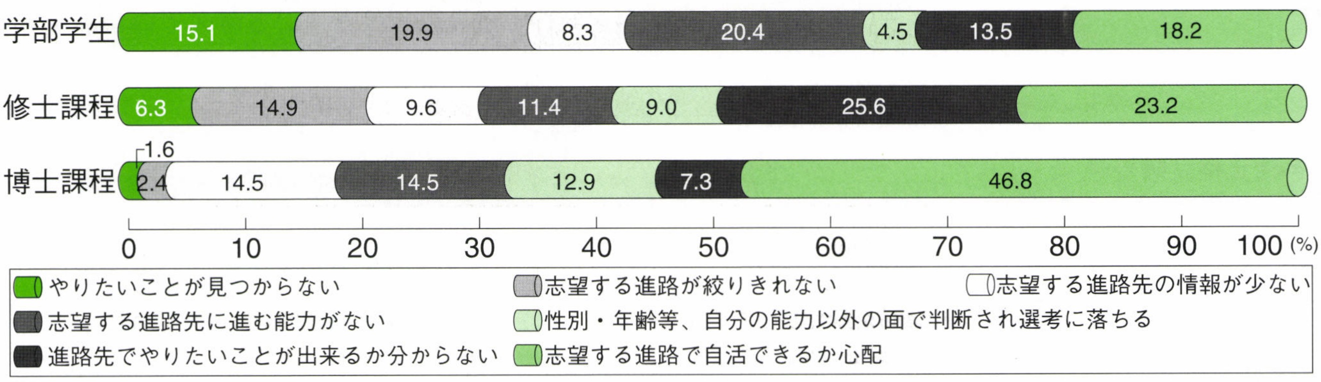
将来の進路についてどのようなことが不安になりますか？（学生種類別、男女別）



博士課程の大学院学生は6割以上が「大学教員」を希望していますが（p.14「卒業後の進路」参照）、進路の的が絞られる反面、そこでの自活の可能性への心配も46.8%と多くなっています。

はみだし情報
意外にも（?）進路への不安は教員との会話の頻度に関連していました。将来「やりたいことが見つからない」という不安を持つ学生は教員と「話をしてない」（40.1%）か「あまりしていない」（30.7%）ようです。不安な学生はぜひ教員とお話を！

将来の進路についてどのようなことが不安になりますか？（学部・大学院別）

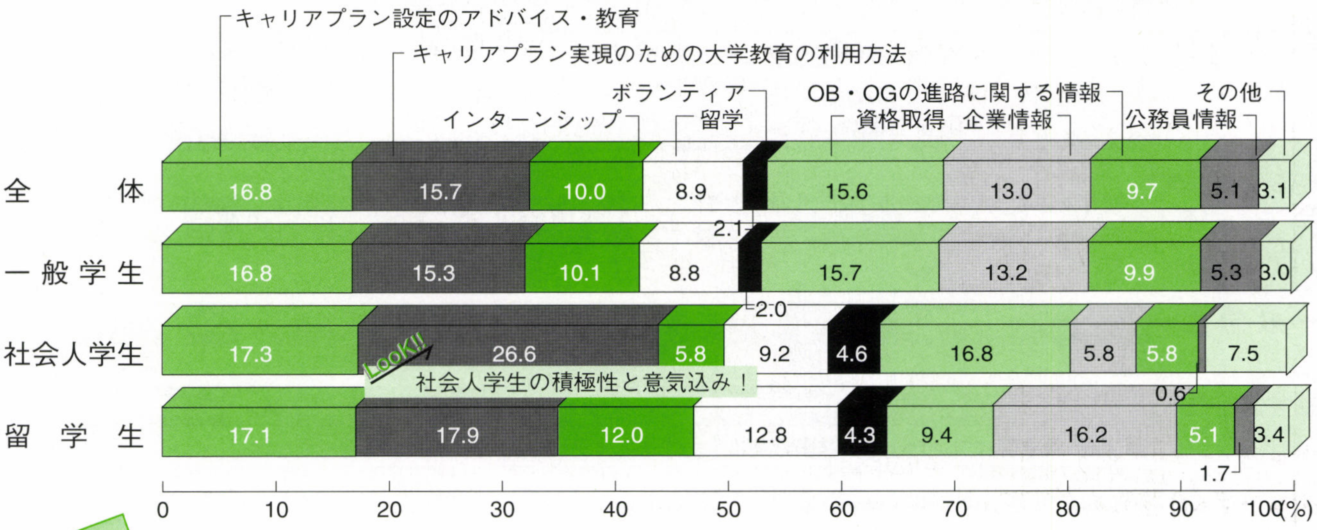


将来設計への情報やサービスは満遍なく欲しい？

POINT 大学教育の利用方法を積極的に模索している社会人学生

将来設計について大学から受けたい情報やサービスは「キャリアプラン設定のアドバイス・教育」「大学教育の利用方法」そして「資格取得」が上位3位ですが、どれも突出しているというわけではありません。逆に言えばどれも必要ということかも知れません。この解釈として、大学から受けられるのならば満遍なく多くの情報やサービスを受けたいと思っているのと同時に、目的とするものが定まっていない状態を反映していることが考えられます。なぜなら社会人学生だけは「大学教育の利用方法」が突出していて、明確な目的実現のために積極的に大学を利用しようという気持ちと姿勢が感じ取れるからです。

将来設計についてどのような情報・サービスを大学から提供してほしいですか？［複数選択可］



はみだし情報

「留学」に関する情報を望んでいるのは博士課程の大学院学生（20.7%）で学部学生の倍でした。専門学校進学志望の学生はOB・OGからの情報やアドバイスを必要としているようです。

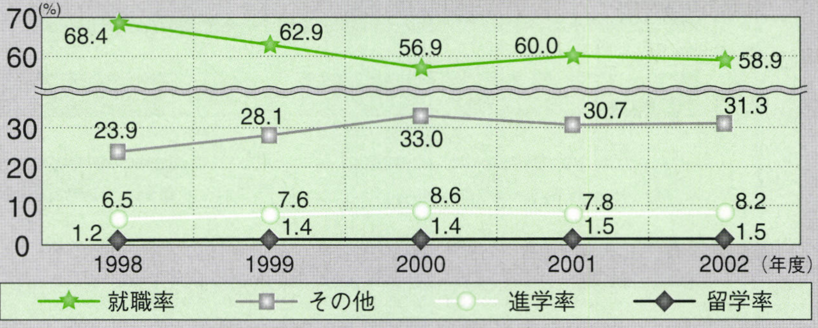
コラム

進路の多様化の流れを受け、キャリアセンターでは就職活動中の学生だけでなく、低学年生の「自分の価値発見」のサポートや卒業生のキャリアアップのお手伝いなど、幅広いキャリア支援の強化を目指しています。

■キャリアセンター

【URL】http://www.waseda.ac.jp/career/

学部新卒者の進路（対象：進路報告者）（経年変化）



「その他」は、自営・一時的な仕事に就いた者、資格試験準備、元の職に戻る者、進路未記入者等の合計。

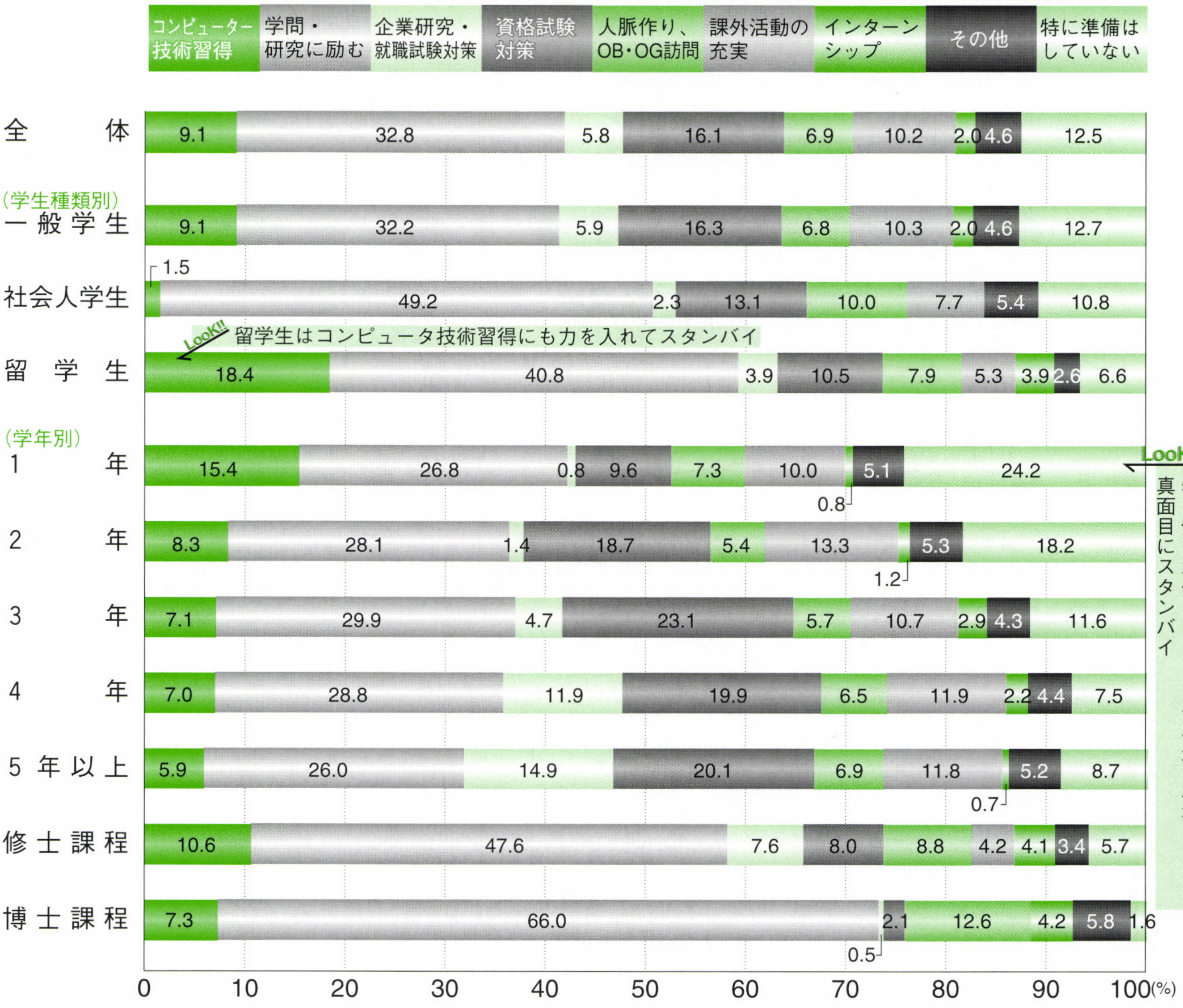
将来へは学生の本分である「学問・研究に励む」ことでスタンバイ

POINT 授業への意欲が高い学生ほど「学問・研究に励む」
意欲の低い学生ほど「課外活動の充実」「特に何も準備しない」傾向あり

将来設計に向けた準備としては「学問・研究に励む」がトップです。将来、大学・研究所・シンクタンク等の研究職を希望している社会人学生や留学生では、その傾向は特に強く見られました。コンピュータは多くが1年次に習得を志し、2年次以降は「資格試験対策」をはじめとするさまざまな準備を卒業までに進めていくようです。やはり就職活動がスタートし、現実に直面するに従い「企業研究や就職試験対策」に熱が入るようです。

はみだし情報 理系と文系を比較すると理系の学生は領域の特性を反映してか「コンピュータ技術習得」、文系の学生は「資格試験対策」や「課外活動の充実」に、より重点が置かれていました。

将来設計に向けて、現在どのような準備をしていますか？（学生種類別、学年別）［複数選択可］



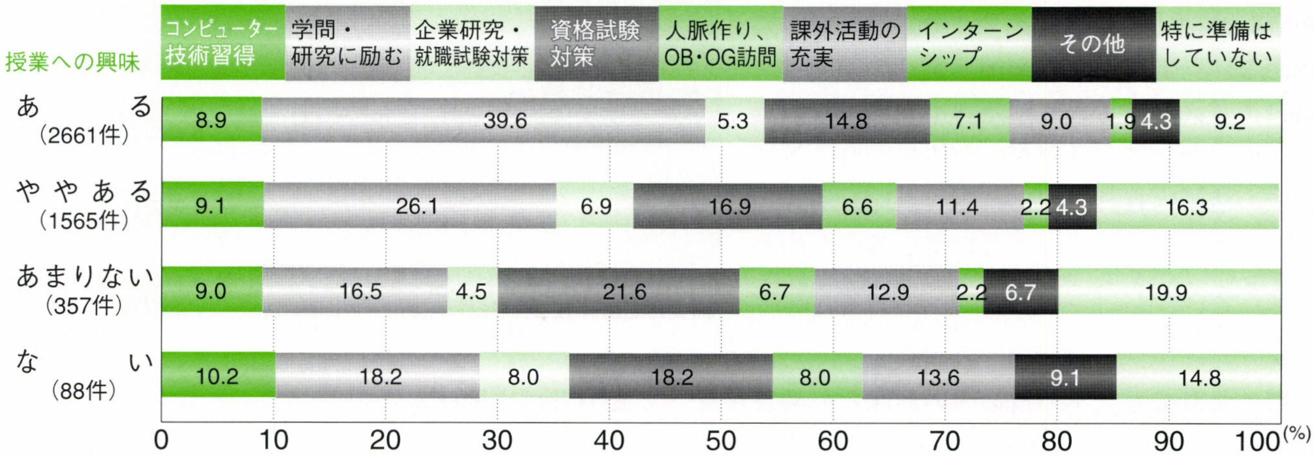
９割の学生は大学の授業に興味を持っています。興味のある学生ほど将来設計に向けて「学問や研究に励む」ことで準備をしていますが、逆に「興味のあまりない学生」は将来に向けて「特に準備をしない」で安穏としているようです。ただなぜか「資格試験対策」に熱心です。

当然、それは出席率にも関係し、出席率が良い学生ほど「学問・研究に励む」のに対し、出席率が悪い学生ほど「課外活動の充実」に励むという学生の本分を忘れた残念な結果が見られました。

同様な関係は「授業への満足度」や「大学の勉強が将来役立つと思っているか」を聞く質問でも見られ、授業への満足度の高い学生や大学の勉強が将来役立つと思っている学生ほど「学問・研究に励む」ことで将来に備えていました。大学の勉強が将来役立つと思っていない学生は「課外活動の充実」にウエイトを置き「特に準備をしない」といった傾向も見られました。

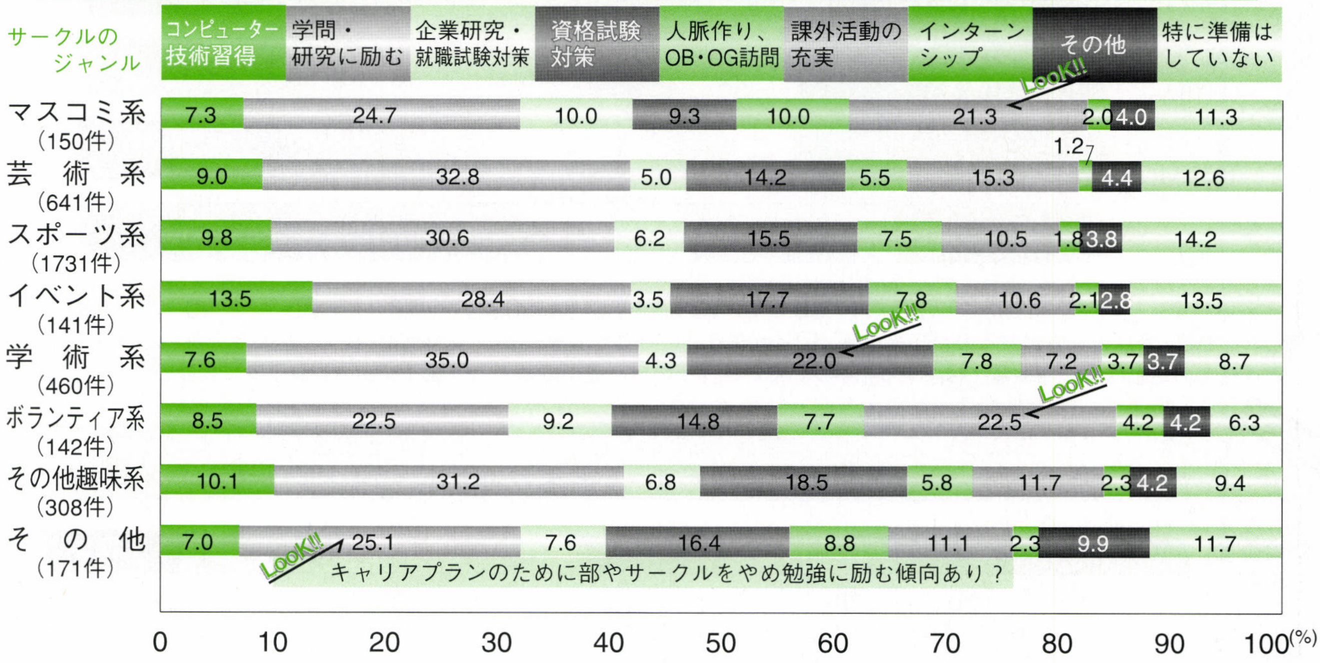
課外活動は良さもありますが、留学や学業への影響を考え、不参加もしくは途中でやめている学生は「学問・研究に励む」傾向を持っていました。

将来設計に向けて、現在どのような準備をしていますか？［複数選択可］／大学の授業に興味がありますか？



一方、「学術系」の部やサークルに参加している（していた）学生は「資格試験対策」、「ボランティア系」や「マスコミ系」は「課外活動の充実」を将来への準備としていて、これらを将来につながる活動の一部としてとらえているようです。この「マスコミ系」の学生は人脈作りやOB・OG訪問に力を入れているようです。

将来設計に向けて、現在どのような準備をしていますか？［複数選択可］
／参加している（していた）体育各部・サークル活動はどんなジャンルですか（でしたか）？



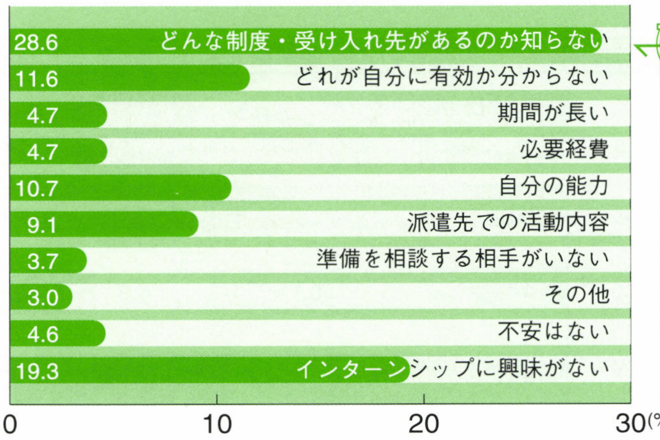
まずはインターンシップ制度の周知が必要？

internship

POINT 不安や躊躇の原因のトップ2は「どんな制度・受け入れ先があるのか知らない」**28.6%**
「興味がない」**19.3%**

学生が一定期間、企業内で研修生として仕事を体験できるというインターンシップ制度は、かなり浸透してきているものの「どんな制度・受け入れ先があるのか知らない」学生が3割弱です。また、「インターンシップに興味がない」とする学生も多く、その傾向は文系により高く見られました。不安になり躊躇する原因として、学年が上がるにつれ「派遣先での活動内容」が増加していたことからも、この制度でどのようなことができるのか内容自体をよく知らないということがベースにあると考えられます。

インターンシップについて、以下に挙げる点で不安になる・躊躇する要素はありますか？

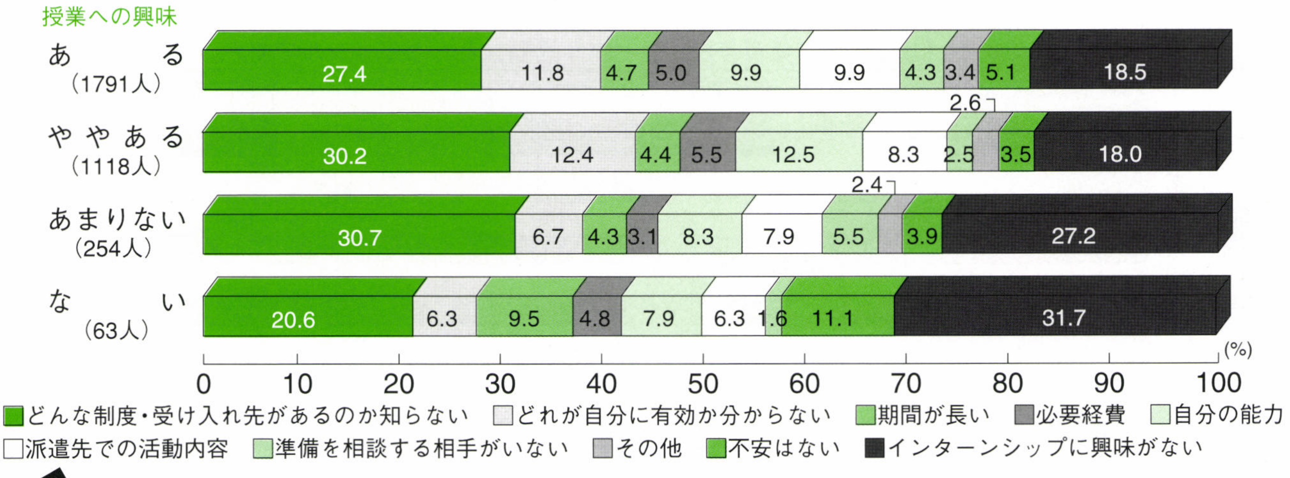
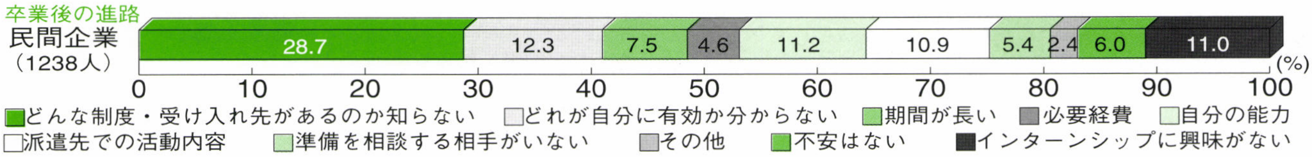


+α 学年が上がるにつれ活動内容が気になる傾向あり！

別の集計でも大学の授業への興味との関連が見られ、「大学の授業に興味がない」人はインターンシップにも「興味がない」ようです。

また志望進路にも関連しており、「民間企業」志望者は「興味がない」と答えた学生が11.1%と他と比べて低く、やはり実体験によって早く心構えと先行知識を身に付けたいとする意志が感じられました。

インターンシップについて、以下に挙げる点で不安になる・躊躇する要素はありますか?／大学の授業に興味はありますか?



一部抜粋 インターンシップについて、以下に挙げる点で不安になる・躊躇する要素はありますか?／学部・研究科卒業後の進路はどうしたいと考えていますか?